

保護者各位

鳥栖市立若葉小学校
校長 篠田 桂子

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要について（お知らせ）

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から公表されましたので、その調査結果をもとに本校の結果について分析をしました。結果の概要についてお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の特定の一部であること、また、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

1 令和5年度全国学力・学習状況調査について

令和5年4月18日、下記のような内容で全国一斉に小学校6年生を対象として実施されました。調査内容は、次のとおりです。

(1) 教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
調査問題では、①と②が一体的に問われています。
(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して調査されています。

2 教科に関する調査結果から全国平均正答率と比較して見える本校児童の姿

(1) 国語について（★は特に課題が見えたところ）

- ・全体の平均正答率は、全国の平均正答率より下回っていました。
- ・「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える問題」においては、全国の平均正答率を大きく上回っていました。
- ★「書くこと」「読むこと」については、全国の平均正答率と同等の結果でした。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の使い方に関する事項」については、全国平均正答率を下回っており課題が見られました。
- ★「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題」については、全国の平均正答率を大きく下回っており、さらには無回答率も高く課題が見られました。

(2) 算数について（★は特に課題が見えたところ）

- ・全体の平均正答率は、全国の平均正答率より下回っていました。
- ★「データの活用」については、全国の平均正答率と同等の結果でした。しかし、「数と計算」「図形」「変化と関係」については、全国平均正答率を下回っており課題が見られました。
- ★評価の観点別に見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」については、全国の平均正答率を下回っており課題が見られました。
- ★「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り表の中の知りたい数を求める問題」や「伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係でないことを説明する問題」については、全国の平均正答率を上回っていました。しかし、「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題」や「示された棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み取り、見出した違いを言葉と数を用いて記述する問題」については、全国の平均正答率を下回っており課題が見られました。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果から見える本校児童の姿

- ・「自分には良いところがあると思う」と回答した割合は59.7ポイント（全国は42.6ポイント）となっており、自己肯定感の高まりを感じます。

- ・「学校に行くのは楽しいと思う」と回答した割合は 64.2 ポイント(全国は 49.8 ポイント)、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した割合は 49.3 ポイント(全国は 32.0 ポイント)となっており、学校で友達と共に学ぶことに楽しさを感じていることがうかがえました。
- ・「読書は好きです」と回答した割合は 49.3 ポイント(全国は 39.4 ポイント)となっていますが、「学校の授業時間以外に読書をしている」「昼休み、放課後、学校が休みの日に図書館等に行く」と回答した割合は 30 ポイント以下となっており、日ごろからの読書離れが見られます。
- ・「課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいた」「各教科などで学んだことを活かしながら自分の考えをまとめる活動を行った」と回答した割合は全国平均よりも大きく上回り、自主的・自発的に学習に臨む意識の高さがうかがえます。
- ・「学級での話し合いを活かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と回答した割合は 53.7 ポイント(全国は 30.6 ポイント)、「道徳の授業では自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した割合は 65.7 ポイント(全国は 44.3 ポイント)となっており、学級全体で話し合いを基に課題解決に向かおうとする意識の高さがうかがえます。
- ・「学習の中で ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の問いに役に立つ・どちらかと言えば役に立つとほぼ全児童が回答しており、ICT 機器を利活用する必要性を児童自身が感じていることがうかがえました。実際に、「授業でも利用した」「学校の授業時間以外に ICT 機器を勉強のために使った」と回答した児童の割合は、全国平均・佐賀県平均を超えており、タブレット端末等の ICT 機器を進んで活用している児童の姿が見られます。
- ・「朝食を食べている」と回答した割合は 91.0 ポイント(全国は 83.7 ポイント)、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した割合は 59.7 ポイント(全国は 38.1 ポイント)、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した割合は 67.2 ポイント(全国は 55.1 ポイント)となっており、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣が整っていることがうかがえます。

4 今後の改善策（児童の力をさらに伸ばすために）

- ・授業のねらいに基づく「めあて」と「まとめ」、「振り返り」を位置付けた分かりやすい授業を行います。また、自分の考えを書く学習活動を様々な教科において継続して行います。
- ・国語や算数、特別活動などの授業の中で児童同士が交流する「友達タイム」を積極的に取り入れることにより、児童の考えを深めたり広げたりするとともに、互いの理解の定着を促すようにします。
- ・電子黒板やタブレット端末を授業の中に効果的に活用し、個に応じた指導や分かりやすい授業を継続して行います。
- ・児童理解に努め、日頃から安心して学べる学級づくりに取り組むとともに、一人一人を大切に学習を進めるように心掛けます。
- ・朝の時間を活用し、月曜日の「スキルタイム」では、視写の活動を中心に「書く力」を伸ばす取組を継続して行います。

若葉小教職員全員が児童の実態把握に努め、目指す児童像に向けて共通理解を図り、一致団結して「確かな学びの積み上げ」に向け努力していきます。

ご家庭でも次のようなことに心掛けていただければと思います。

「学力向上に向けた取り組み」「家庭学習のしおり」「家庭学習の指針」をすでに学校から配布し、以下の内容についてお知らせやお願いをしていますので、どうぞよろしくお願い致します。

①家庭学習時間のめやす（10分×学年数字+10分）「家庭学習の指針」参照

②家庭学習で行うべき内容のアドバイス

③児童の家庭学習に当たって、保護者に協力していただきたい事柄

学年に応じた内容にしています。ご確認の上、ご協力よろしくお願ひします。

なお、わかりにくい部分がありましたら、気軽に学校までお電話ください。

【担当】教務 古城武史 教頭 遠藤悟 電話 82-8722